

山口局
料金別納
郵便
ゆうメール

山口県栄養士会

栄養やまぐち

新年度にむけて

令和3年度が始まり2カ月が過ぎようとしています。通常であれば6月開催の総会を、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の影響により、止むを得ず書面議決とさせていただきます。会員の皆様から執行部より事業報告や決算・計画及び予算など、お伝えする機会を失い、拡大防止とはいえ申し訳なく思っております。

令和2年度を振り返ってみますと、去年は会員の皆様にとって仕事や生活面において例年とは全く違った1年だったのではないかと思います。年明け間もなく感染拡大が始まり、業務にご苦労をされましたこと、拡大防止に尽力されましたことお礼申し上げます。会におきましても研修会は8月いっぱい中止とし、その後は拡大予防策をとりながら一部webを用いたスタイルに変更し開催をいたしました。不慣れな事も多く、会員や受講された皆様から十分な満足を得られなかったのではないかと思います。しかし、その中でもこれからの事業や研修会のあり方が見えてきたようにも思います。「withコロナ」に向けて、私たちは新しい生活や業務のあり方を築いていく必要があると考えます。

令和3年度は介護報酬改定や第4次食育推進基本計画の決定など、管理栄養士・栄養士に関わる改定が発表されました。また、未来を見据えたSociety5.0・2050年の社会のあり方、その時代に私たちはどのような職業・仕事になっているか、役割はどう変わっているのかなど、時代は今までにないスピードで変わろうとしています。介護報酬改定では新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生する中で、感染症や災害への対応力の強化を図るとともに、団塊の世代の全てが75歳以上となる

公益社団法人 山口県栄養士会 会長 中谷 昌子

2025年に向けて、2040年も見据えながら、地域包括ケアシステムや自立支援・重症化防止の取組の推進、介護人材の確保・介護現場の革新、制度の安定性・持続可能性の確保が図られた改定になっています。また、第4次食育推進基本計画では基本的な方針として、「生涯を通じた心身の健康を支える食育推進」、「持続可能な食を支える食育の推進」、「新たな日常やデジタル化に対応した食育の推進」の3つを重点事項としています。Society5.0、「聞いたことはあるけれど」と思われる方も多いのではないかと思います。内閣府によればSociety5.0とは、サイバー空間(仮想空間)とフィジカル空間(現実空間)を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する人間中心の社会で、狩猟社会(Society1.0)農耕社会(Society2.0)工業社会(Society3.0)情報社会(Society4.0)に続く、新たな社会を指し、第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿として提唱されましたと示されています。(詳しくは日本栄養士会雑誌5月号から毎号連載されています。)

これらのことから、山口県栄養士会は、栄養を用いた支援を通して人々の幸せを実現でき、真に人に寄り添った支援ができるように、新たな時代に添った管理栄養士・栄養士に向けて、会員の皆様からご意見をいただきながら事業や研修会を開催していきます。皆様のご協力ご支援を今後ともよろしく願いいたします。



2021年度 永年模範表彰者名簿

地域専門部会	氏名	職域専門部会
岩国地域	岩見明子	地域活動
岩国地域	石原早苗	公衆衛生
岩国地域	中上さやか	医療療
柳井地域	河村香代子	医療療
山口地域	福重裕子	医療療
山口地域	加藤元士	研究教育
宇部地域	清水佳代子	福祉
宇部地域	西村泰明	地域活動
北浦地域	藤川淑子	地域活動
北浦地域	久賀智子	福祉

CONTENTS

② 通常総会書面決議報告

③ 介護報酬改定 活躍の場を広げるチャンス到来!
やまぐち栄養ケア・ステーションの現状と
これからめざすこと

④ 職場紹介～コロナ禍での栄養指導～
編集後記

通常総会書面決議報告

山栄発第 16号
令和3年6月9日

会員各位

(公社) 山口県栄養士会
会長 中谷 昌子
総務委員長 福田 裕子

令和3年度通常総会書面評決の結果について

新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から、今年度の通常総会を書面評決とさせていただきますことに対しまして、ご理解とご協力を賜りありがとうございます。

さて、令和3年6月3日までに書面評決をご提出いただきました結果について、下記のとおりご報告いたします。

記

令和3年度 通常総会書面評決報告

通常総会社員総数 762人

内訳：765人(3/31計) - 31人(5/31迄に退会・転出) + 28人(5/31迄に新・再入会) = 762人

書面評決書提出者 517人

書面評決提出数は、令和3年6月6日開催の役員会において理事11名で確認し、定款第19条及び第20条の規定に基づき議決権の定足数を充足していることを確認した。

審議事項

議案1 令和2年度事業報告 承認 516名 否認 1名

議案2 令和2年度決算報告 承認 517名 否認 0名

結果

すべての議案について、書面評決書提出者の過半数の承認があり、定款第19条の規定に基づき可決された。

以上

今後とも(公社)山口県栄養士会にご理解ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



介護報酬改定 活躍の場を広げるチャンス到来!

福祉事業推進委員会 委員長 田中 光恵

令和3年度介護報酬改定が示されました。今回介護業界における改定は栄養管理が運営基準に規定されるという画期的な改定です。私たちがこれまで食を通じて、ご利用者の健康を支えてきたという実績が評価されました。栄養ケア・マネジメントの包括化は3年の経過措置ののち、実施されていない施設は減算となります。栄養ケア・マネジメントをされないことは、国の目指す施設のあるべき姿において、ご利用者の栄養と健康上適切ではないと判断され、今後速やかな実施が求められます。また栄養マネジメント強化加算についても低栄養改善を含み、入院や死亡のリスクを軽減させ個人の尊厳を守る為に策定されました。「アウトカムを出してこそプロセスも評価される」と言われているように、栄養マネジメント強化加算を算定してこそ、これまでの栄養管理が評価されます。また、適切な給食管理がないと栄養管理は出来ない為、給食業務に携わる栄養士と一丸となり食事提供をしなければなりません。命を繋いでいくためには食べ続け、それを一番理解しているのは栄養士です。今後採用される栄養士が増えれば、組織力も増し、食べる大切さを広く伝えられると思います。国が示す趣旨を理解され取り組みへの計らいをお願いします。制度の詳しい内容は、日本栄養士会ホームページに掲載されています。また、研修会も準備されていますので是非ご活用下さい。



ご利用者の方に描いて頂きました

*下の図は、当施設（すき苑）の場合の算定額をお示ししています。入所者50名に対し管理栄養士1名、給食業務は業者に委託しています。療養食は提供しているものの施設の特色を活かすため経口維持加算の算定に力を入れています。

令和2年度 栄養関連加算算定額					令和3年度 栄養関連加算算定額				
加算	人数	単位	回/年	算定額(年)	加算	人数	単位	回/年	算定額(年)
栄養マネジメント加算	50	14	365日	2,555,000	栄養マネジメント(包括化)	50	14	365日	2,555,000
療養食加算		6			栄養マネジメント強化加算	50	11	365日	2,007,500
経口維持加算(I)	16	400	12月	768,000	療養食加算		6		
経口維持加算(II)		100			経口維持加算(I)	16	400	12月	768,000
経口移行加算		28			経口維持加算(II)		100		
低栄養リスク改善加算		300			経口移行加算		28		
再入所時栄養連携加算		400			再入所時栄養連携加算		200		
合計				3,323,000	合計				5,330,500



やまぐち栄養ケア・ステーションの現状とこれからめざすこと

やまぐち栄養ケア・ステーション推進委員会 福田 裕子

やまぐち栄養ケア・ステーションの活動実績

活動実績は、栄養ケア・ステーション事業として総会資料に掲載しています。平成18年から（公社）山口県栄養士会に拠点として設置し、現在は認定栄養ケア・ステーション2事業所を認定しており、特定保健指導・糖尿病性腎症重症化予防・栄養価計算など様々な業務を請け負っています。現在45名の方が登録されています。

コロナ禍で変化を求められる栄養指導方法

平成22年度に下関市と契約した活動である特定保健指導及び糖尿病性腎症重症化予防の保健指導は順調に業績を上げていましたが、昨年度はコロナ禍のために、活動中断を余儀なくされました。今年度（令和3年度）の活動については、6月28日に下関市と打ち合わせをし、指導方法を変更して再開する運びとなりました。感染予防を十分に実施したうえで、初回のみ面談とし以後はリモート指導（電話やオンライン）という方法になり、指導単価の設定変更もされました。

栄養指導、保健指導はもともと人と人の信頼関係の上に成り立つ業務ですので、リモートだけではなかなか、患者さんの本質には届きにくいという印象があります。ただ、今後も面談の回数や時間は制限が続くことを想定しての運営が重要ですし、栄養指導のスキルとして、リモート対応が必須になると思います。

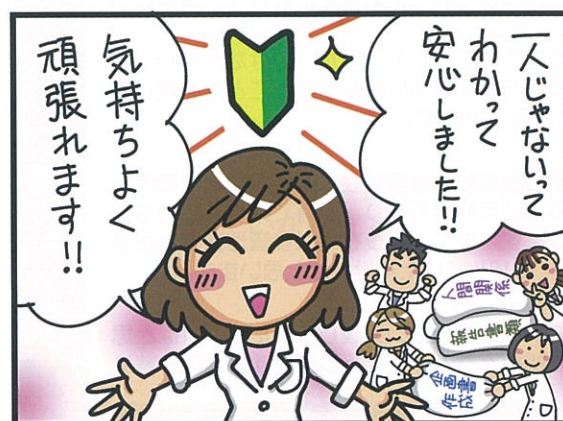
栄養ケア・ステーション登録者募集

栄養ケア・ステーションに登録して活動していただいている方は地域活動事業推進委員会に所属の中途退職者、定年退職者の方が中心です。時間が自由であり、仕事量も希望に添えるという利点もあり、子育て中や社会的な貢献を少しでもというお気持ちの方には是非、エントリーをお願いいたします。また、今後在宅栄養管理指導を増やしていくためには、できるだけ山口県を網羅するように色々な地域の方に参加していただければと思います。

栄養ケア・ステーション拡大のための栄養士の支援体制

興味はあるがどうしてもよいかかわからない方は、研修会や先輩の指導により、少しずつ実践していただければと思います。会員の知識や技術で、これからも県民の皆さまの健康づくりに関わることができる機会です。是非一緒に活動を始めてみませんか。登録お待ちしております。

あるある漫画のコーナー



©うたのん

「職場紹介 ～コロナ禍での栄養指導～」

山口県済生会豊浦病院

田尾 郁恵

栄養指導を中心に病院で勤務する栄養士です。コロナ禍での業務、どのような変化があったのでしょうか？

一番大事なことは、体調の自己管理。職場では、就業前と終業後には体温測定、体調チェックを行います。マスク生活で呼吸が浅くなっているため、早朝散歩と深呼吸が日課になりました。

さて、当院の栄養指導室は、PFM（入退院患者支援センター）相談室と同じエリアにあり、指導室前の待合ブースは人の流れが頻回な場所です。そのため、朝の環境整備は看護師とともに念入りに行います。そして、入室される患者様と共に手指消毒。難聴のため大きな声で会話をする場合は、テーブルの中央に透明仕切り板を置いています。終了後はテーブル、椅子、ドアノブなどを1回毎に消毒します。

昨年は、医師が指導する栄養士を守るためにと依頼件数を極端に減らしてしまいましたが、患者様側にも感染対策が周知されてきたこともあり、次第に増加しています。家族で過ごす時間が増え食事を担う方からは、「簡単に作れる栄養のある食事」や「免疫力を上げる食事」など今までとは違う質問が増えています。それに応えられるようにと日々取り組みを続けています。

そして、1日も早い感染の収束を祈念しています。



編集後記

東京2020オリンピック競技大会（TOKYO2020）では、多くのアスリートから沢山の感動を貰いました。

新型コロナ感染拡大により、リモートワーク、リモート講義に、学校現場では1人1台のタブレット端末を用いた授業も今や当たり前時代となってきました。

会議や研修会を開催する上で、対面方式、リモート方式には、ともに利点、欠点とありますが、先の調査で、本会会員もWEB(ZOOM)会議への参加経験者が67%、その一方でインターネット(Wi-Fi等)の環境がない方は4.2%でした。

これからの時代、ICTの活用は益々広がり、時間や距離の隔たりを超えた重要なツールとなります。共に、情報共有のアンテナを高くし、自己研鑽に努めていきましょう。